

令和6年度

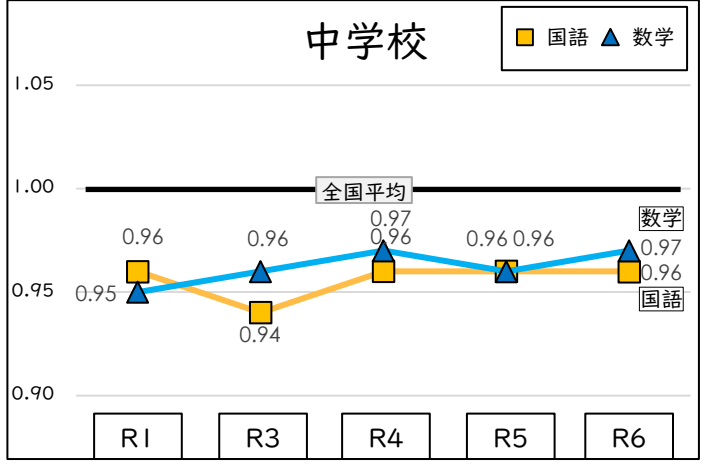
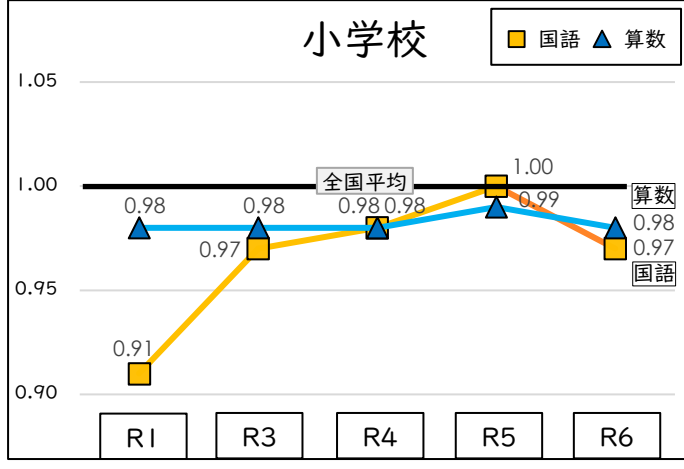
全国学力・学習状況調査の結果について

「令和6年度全国学力・学習状況調査」は、令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒を対象として、国語、算数・数学の2科目で「教科に関する調査」「質問調査」が行われました。

◆教科に関する調査の結果◆

○平均正答率の対全国比の経年比較

※全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。
※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていません。



平均正答率の対全国比について、前回調査と比較すると、小学校では国語・算数ともに下降し、中学校では数学において改善しています。経年的に分析をすると、全体的には改善傾向にあります。

○今年度の問題より（一部抜粋）

【中学校国語】問題Ⅰ 四 ＜正答率 大阪市37.4% 全国44.7% 全国との差7.3ポイント＞
「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題」

今井さん

たくさん本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん

そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。⑤(図)のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

山岡さん

~~~~~省略~~~~~  
そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん

そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことに似ていますね。⑤おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん

フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。  
次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。  
条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。  
条件2 話し合いの一部の誰の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるように書くこと。

＜図＞

フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

＜解説＞  
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまいます。このような情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」といいます。

話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてどのような目的で話し合っているかといった、めざしている到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要です。

＜解答例＞  
・山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。

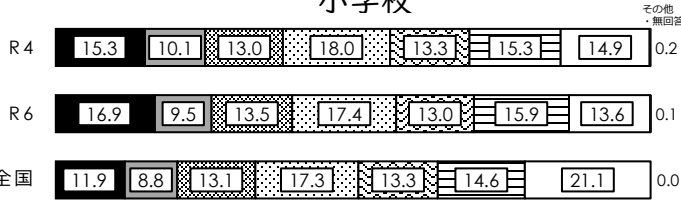
## ◆質問調査の結果◆

※当該質問項目の調査があった年度を掲載しています。

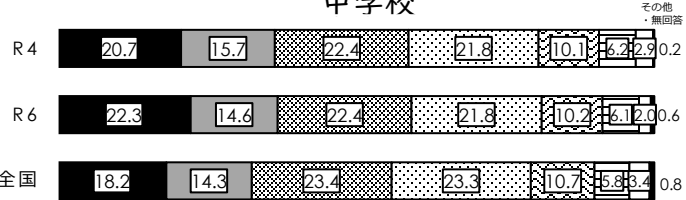
※クロス集計結果については、4月18日に教科に関する調査（国語・算数・数学）を1つ以上実施し、かつ、児童生徒質問調査を実施した児童生徒を対象として集計しています。

○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

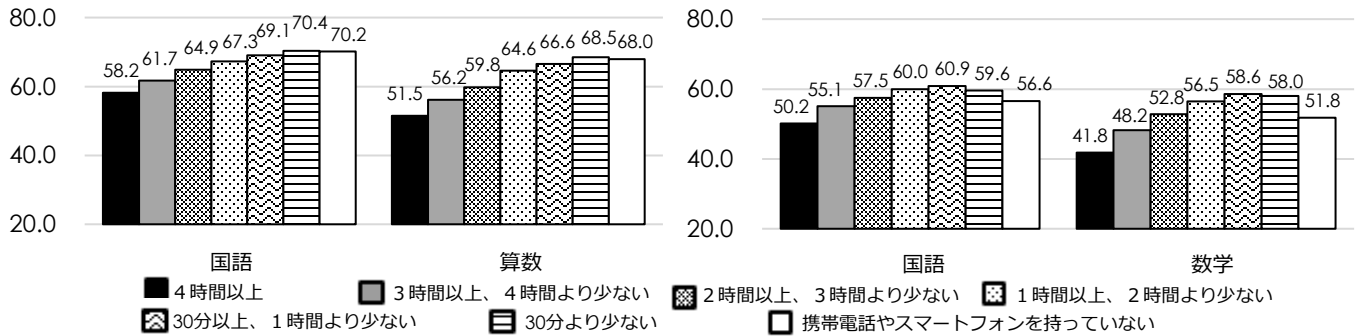
### 小学校



### 中学校



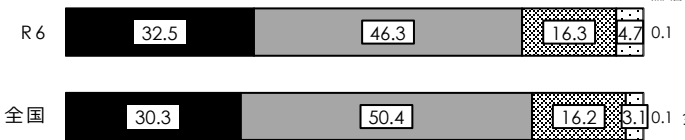
【教科の平均正答率と質問調査のクロス集計結果】



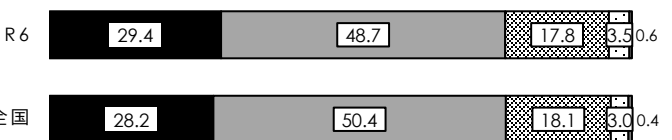
- ・「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」という質問に対して、前回調査と比較すると、小中学校ともに動画の視聴時間は増加傾向にあります。
- ・携帯電話やスマートフォンを持っている児童生徒において、小学校では「30分より少ない」、中学校では「30分以上、1時間より少ない」を頂点として、SNSや動画の視聴時間が長くなるほど、教科の平均正答率が低い傾向が見られます。

○分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

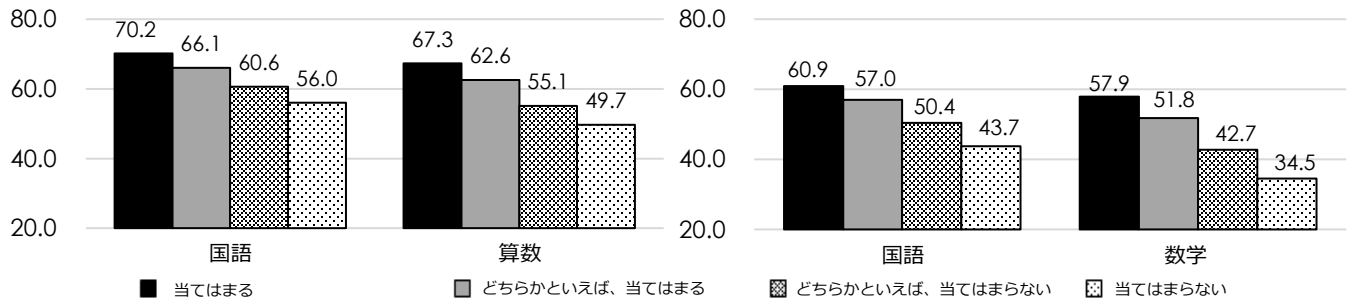
### 小学校



### 中学校



【教科の平均正答率と質問調査のクロス集計結果】



- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国と比較すると下回っています。
- ・小中学校ともに肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

## ◆ご家庭でのご協力をお願いします◆

本市では、約2割の児童生徒が平日における携帯電話やスマートフォンでのSNSや動画視聴の時間について「4時間以上」と回答しています。また「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して、小中学校ともに約2割の児童生徒が否定的に回答しています。

携帯電話やスマートフォンでのSNSや動画視聴の時間が短く、自分で学び方を考え、工夫している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。携帯電話やスマートフォンの使い方等を通じて、ご家庭での過ごし方についてお子様と今一度考えてみてください。そして、お子様が課題の解決に向けて諦めずに挑戦や工夫している時間を大切にしたり、さまざまな学び方や考え方を親子で話し合ったりするなど、学びに向かう姿勢を学校とともに育んでいきましょう。

